

武田 雅司 議員



(二問一答方式)

- ① 決算からの予算要望
- ② ニッポン一億総活躍プランとシルバー人材センター
- ③ 全国学力テスト
- ④ 小学校における英語の教科化の対策

決算からの予算要望について

問 貴重な財源を有効に活用するため、予算の施行状況を適正にチェックし、必要以上に予算を要望しないなど、全庁的な体制整備も必要ではないかと思う。また、支出実績としての決算状況が新年度予算に適正に反映されなければならぬと思うが、予算を執

行する上で、どのような問題や反省点があり、それらを踏まえ、新年度の予算にどのように反映されているのか、また今後どのように対応を図っていかれるおつもりか。

答 当初予算編成作業においては、最少の予算で最大の効果をもたらし、国の動向に注視することや、多種多様な財政需要に対して計画的に取り組むなど、徹底した節減合理化や事業内容の検証と見直しを行うことにより、財政健全化に向けて取り組むことを求めています。

また、予算要求内容の精度を高めることを目的として、各課の予算事務担当職員を対象とした当初予算編成事務担当者説明会を昨年度より開催しています。

また、予算査定時には、過去の決算状況についてチェックを行うなど、中・長期的な視点に立った財政運営を行うことで、市民の皆様への安心・安全な暮らしと活力あるまちづくりの実現につながるように努めていきたいと考えています。

「ニッポン一億総活躍プラン」とシルバー人材センターについて

問 閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」による生涯現役社会を実現するため、雇用の継続の延長や定年引き上げに向けた環境を整えるとともに、働きたいと願う高齢者の希望をかなえるための就労支援を充実する必要があると思う。

国は高齢者の就労促進などの対策を上げられているが、本市では高齢者の就労促進としてどのような方向性を見出し、具体的に何か対応を検討されているのか。

答 高齢者の就労を促進するためには、お元気な高齢者に対して、まずは就労の機会を提供することが重要と考えています。ハローワーク（公共職業安定所）での就労支援に加え、本市においてはシルバー人材センターが重要な役割を担っていると考えており、シルバー人材センターを活用し、就労の機会を提供することが、高齢者の就労促進につながるものと考えています。そのため、会員数を増やしていくとともに、市を初め民間からの業務の発注が増えるよう、シルバー人材センターの制度について、さらに周知を図っていききたいと考えています。

全国学力テストについて

問 全国学力テストは、2007年度に始まり、今回で10年目となる。その実施には、1回につき、50億円もの費用がかかることであるが、そこで得られたデータは、きちんと活用されているのか。

答 データの活用については、教育委員会を初め、大洲市学校の教育力向上推進委員会、大洲市学力向上推進主任会等に報告して、情報を共有し、学力向上に取り組むための資料として活用しています。

また、児童・生徒への質問紙調査の結果については、大洲市教育研究所第2専門委員会において、分析と考察を取りまとめ、各学校に配付するとともに、来年1月20日に開催する大洲市教育研究大会において、これに基づく提言を行うこととしています。

今後においても、年ごとの結果に一喜一憂するのではなく、本市の児童・生徒や学校に、今何が必要なのか、十分検討を行い、支援を継続していききたいと考えております。